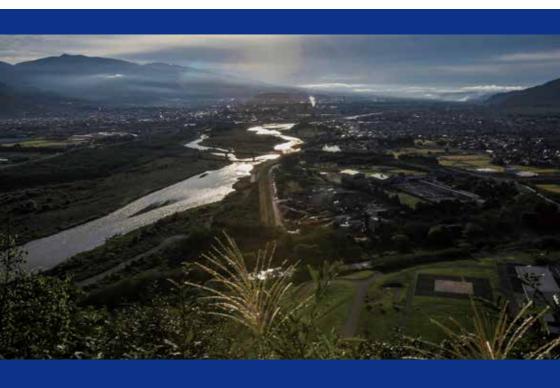




千曲川地域の人と文化を紡ぐ



NPO法人上田図書館倶楽部(上田情報ライブラリー委託事業) 2024 年 1 月

初けり

初日の光さしそめにけり見ゆる限り山の連りの雪白し

島木赤彦



表紙の写真

「千曲公園からの眺望」

上田市小泉にある千曲公園からは千曲川と市街地、そして遥かな山並 みが一望できる。早朝、烏帽子岳には霧がかかり、雲の上から朝の光 が次第に輝きを増していく。雄大な千曲川の流れは悠久の時を刻み、 流域に豊かな文化をもたらしている。

写真・文 矢幡正夫

もくじ

- 4 躍働 地域とともに歩む画家 米津福祐さん ----- _{伊藤文子}
- 10 信濃を旅した文人たち **林聖子をめぐる人々(その二) 文壇バー「風紋」女主人として生きる** ---- 海野郁
- 14 ぶらり散策 **千曲公園** ----- 望月聡子
- 16 観点

この先の人材不足・人材不在へ備えよ ~上田地域の経済発展の鍵~

- ----- 一般財団法人浅間リサーチエクステンションセンター 専務理事・センター長 岡田基幸
- 18 図書館訪問記 帝国図書館から国際子ども図書館へ ---- 海野郁
- 22 寄稿

「図書館」のこれまで、いま、これから

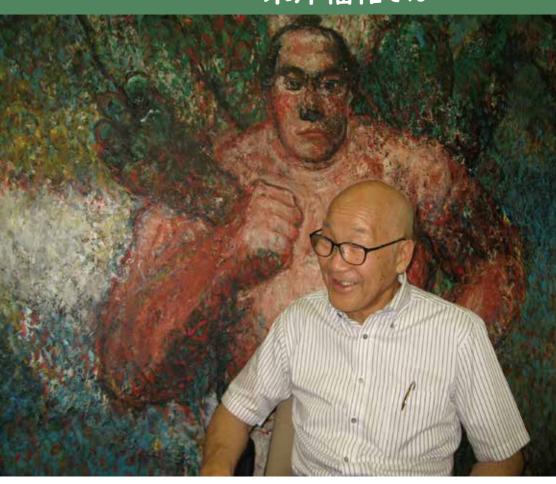
----- 上田情報ライブラリー 館長 金田早苗

- 23 読者の声
 - ・終刊によせて
 - ・「環」廃刊を惜しみつつ 「お疲れ様でした」
- 25 **上田情報ライブラリーと NPO 法人上田図書館倶楽部との協働**----- N P O法人上田図書館倶楽部 理事長 小平千文
- 29 終刊の辞 ----- 宮下冠山

躍働

地域とともに歩む画家

米津福祐さん



関静な住宅街にあるアトリエで、ジャズを聴きながら絵を描く。風景や人物、静物などを油彩、水静物などを油彩、水静物などを油彩、水彩、素描と多種多味に表現する。上田様に表現する。上田村で、一つで、大び展覧会に出る。 一さささや社長)は小学生の頃より絵と向き合う。作品はたびを選覧会に出品し、をがある。 大び展覧会に出品し、をは、大田など数か所のを上田など数か所のを対している。 にさ面白さを伝えている。

載、 ている。 は多くの読者に親しまれている。 トップページに隔週で絵と文を掲 配布されている 描 両者が軽妙にマッチしたコラム 画だけでなく文筆にも卓 上田 市や周辺の 『週刊うえだ』 市 町 村 越 0)

特に活動的なのは芸術の秋である 津さんの日程は、 9月と10 午後は近々開かれる展覧会の案内 月。 取材で訪れた日の米 午前は絵画教室、

躍働そのものの生活を送るが、

楽部 月中旬アトリエにお邪魔した。 奥様の弁。その活力の源は? るで青年のような日々です」 状発送作業、 実は、 当時と変わらぬ意欲的な米 (2004年発足)の初代理 米津さんは上田図書館倶 夜は原 稿書き。 とは ŧ 9

A

事長、 の願いを抱えての訪問だった。 ていただきたいというスタッフ全員 津さんに、是非「環」の最終号を飾っ

週刊うえだ8月26日号 とあります。 与」「信州美術会会長 大役です。 員会会長」「*山本鼎版 画大賞展実行委員 長野県美術展運営委 田図書館 俱楽部 20

社団法人

紀会参

Q

頂いた名刺に「一

ときも即、 いています。

を豊か も運営 ね。 ます うにしてい ですよ。 分にとっ れこれ考えを巡らせるのは、 続けてい りませんが、 どうしたら会をスムー 頼まれたことは断 に L 人間関係も広がりますし ï て結構楽し くことができる 7 Ö ・ます。 てくれ くの 役職 は自 な容 どの ると思 い時 よう らな 分 易 か、 間 0) つ で は な会 精 な ズに 7 1 h あ あ ょ 神

す。 まず今後に生かすようにしていま かない主義なので、 それと、 基本的に後ろを振 失敗しても悩 り向

明治 Щ で子どもたちに自由に絵を 版画家として活躍 本 から昭 鼎:1882 和にかけ -1946て洋 田 画

年前に

ずれも

長

理事長をお願

ため、 自由 術運動を推進し、 農民たちの生活を豊かにする 描くことの尊さを教える児童 (上田市立美術館 画教育運動を提唱。 工芸品をつくる農民美 全国へ広め ホーム 。また、

ージより)



高校生の時に作った木彫

Q 絵は 何歳 頃から描き始められ

年生から中学、 私はラッキー なことに、 高校まで、 小

> どの美術 てくれて……、 どき先生に見せるととても褒め それからは自由に描いて、 る理由だったと思い当たります。 てみると、 た指導を受けました。振り返っ という言葉が「シタジキ」になっ 「自分が直接感じたものが の先生からも山 それが絵が好きにな 嬉しくなってど 本 ?尊い とき 鼎 \mathcal{O}

めている好きな言葉です。 事に!」(絹谷幸二)なども心に留 い』『表現したい』という情熱を大 くりに写す技を磨くより『描きた 礎はない」(山倉和穂)「本物そっ 『絵画好き』という心情に勝る基

その先生に推薦されただけで十分 術大学に進む道もあったのですが、 に武蔵野美術大学を推薦され、 上田高校卒業後、尊敬する先 生

> あったりして今に至っています。 継ぐべく料理修行に行 と思い、 紀会や信州美術会の仲間と研鑽 働きながら入門書で独学したり二 大学へは行 かず、 きました。 家業を

子呑風です。 続けました。このようなことが長 早朝に2時間夜に3時間絵を描き じられた遊び」 てくれました。 と思います。 文化や芸術に理解があったからだ 年できたのは、 現役時代、 特に女房は支え続け 日中は忙しいので、 父親は初見で「禁 家庭にも親戚にも 伯父は川柳家の金 をギターで弾きこ

んどん描くようになりました。

「絵の本当の基礎は心の中にあり

印象深くて、 みやすいです。 文が親しみやすい表現でとても読 を楽しみにしています。 毎回「週刊うえだ」 米津さんの意欲的 特に8月26 の私話 日号は

日々が伝わってきます。

ていますので、 を描くようにしています。 どになりますが、 にまとめ、 の動きに疎くならないように の時事や話題にふさわしいテー マを取り上げ、 和 いんですよ。 私話私絵」は始 『朝のテーブル』など4冊 出版することができ 文を 緊張感があって 30年分を『 回その したため め 7 30 写生 世 年 間 々

りの句が添えられていて、いつも心畑汀子)でしたが、時節にぴった「立秋と聞けば心も添う如く」(稲が載っていますね。8月26日号にはの、1私話私絵」の中によく俳句Q 「私話私絵」の中によく俳句

心があってね、新聞や雑誌に載っA 俳句は高校生のときから関に残ります。

た句はすっと頭に入っちゃう。 わし雲」(藤田湘子) など気に入っ らくさや 読み返すのが楽しくて……。 りの量になりました。 にまとめ 7 いる俳句を切り抜 7 どこでも生える V 、ます。 今ではかな それらを て月ごと 「あ い

すか。 電のどんなところに魅力を感じまを持った人は多いと思います。雷 を持った人は多いと思います。雷 神さんの絵によって雷電に親しみ 本―讃雷電」を開催中ですね。米

見え、 く の 士ですが、 A ました。 年ほど前 か」とよく聞かれ 「なぜ雷電 東御市滋 浅間 生家から浅間 山の噴火から雷電 寛政期に活躍 出身が女房の実家 野 為 で親 右 ます。 衛門を描く 近感 Ш した力 2 5 0 よく あ 近 σ ŋ

| F な描き売けるように重要名がつけられたそうです。

の史跡を訪ね歩きました。それにきながら、雷電に関する小説や伝どの魅力が深まってきました。描どの魅力が深まってきました。描い理由や学徳に秀で温厚な性格ない理由や学徳に秀で温厚な性格ない理由や学徳に秀で温厚な性格ない理由や学徳に秀で温厚な性格ない。



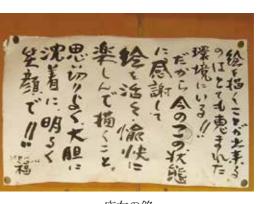
筆の数々

時に、 てくれました。 興に入り、充実した気持ちにさせ よって描く意義が一層固まると同 不思議に描くことと同様に

のカタチを表現したいと思っていま 感じています。いわゆる「大和」 鍛えられた日本人の体格には西洋 人と違った肉体の美しさがあると 20年間雷電を描いていますが

Q いろいろな絵画教室に関わら

ます。 東御、 から依頼されて講師をやってい 分が主催する教室や講座はあ センターの水彩 Α の会」も引き受けています。 いつのまに 上田などの絵 長野大学地域づくり総合 通講 か 、長野、 座「みづえ 画グループ 佐 ń



Щ 本 鼎の 座右の銘

でも、 造性がないと面白くない」という ことを話しています。 老若男女誰 生は意味がない。写生のなかに創 い」です。「写生でもそっくりな写 言葉「自分が直接感じたもの しは全く関係なく 基本にしているのは、 . 才能有る無し、 潜在する心の 経験有る無 が尊

> が、毎回盛況で355回まで続き 年前まで30年間、 をしています。 て講演やコンサートを行ったのです いていました。毎回ゲストを招い 意味を大きく捉えた美術講座を開 アートフォーラム」という美術 に出品する人もいます。 いますが、皆さん一生懸命で県展 思いを表現したい方々のお手伝 絵画教室ではないのですが、5 いずれ 月1回「ささや も 20 ~ 30 人 0

A Q われますか。 した。社会の移り変わりをどう思 の千曲川で大勢の人が水遊びをし ている素描画があります。 全く違う光景に見入ってしまいま 『写生日和』に、50年以上前 随分変わ りま Ū た ね。 今とは は

農作業も荷物運びもみんな人の

8

た。いや一楽しかったですね。

活は 芸術は手先を動かして自分の でしょうか。 コンなど機械が多くなった。 を表現するもの。 番が少なくなって、 でやりました。 (価を発揮するときではない 便利になったけどね。でも、 いまは・ 今こそ人間 車やパソ 想 0)

回 にかけて、 良い記念になりました。 栗原賞などの賞をもらいました。 奨励賞、二紀展で同人賞、鍋井賞、 受賞も多いと聞いております。 日本水彩画会展で文部大臣 1967年から1973年 長野県展知事賞を2

貼ってありますが、 き続けています。今の心境を壁に 絵を描くことが本当に好きで描 毎日笑顔で愉

米津さんの著作

トンを携え、 んは、先人たちから受け継いだバ んになる。戦後、洋画グループの 鼎の影響で、 育と農民美術運動を推進した山本 美しさから多くの洋画家が生まれ 域の先取気質と信州の山 員となって活動を支えた米津さ 上 昭和に入って、児童自由画 田 市周辺では、 令和5年9月15日取材 美術活動はさらに盛 日々快走している。 明 岳風 以 景の 教

伊藤文子

信濃を旅した文人たち

林聖子をめぐる人々(その二)

ような美少女だった」と書いてい

「風紋」 女主人と

の聖子を、「細面の、

すらりとひき

しまった身体つきの、

若さが匂う

ぎようとしている少女を呼び止 み屋にいると、太宰は前を通り

林聖子だった。野原はその時

ちゃん、 は新潮社に入社、 っかと思いながらも、 太宰が言った。自分に勤まるだろ それからしばらくして、「聖子 ところが、 、出版社に勤めない 翌年 Ó 編集部で働き始 1 19歳の聖子 9 4 か」と 8 年

太宰は山崎富栄と玉川上水で 6

> 聖子にとっては父のような存在だっ ど言葉にならなかったという。 まれ、 儀は 心 た。 富子にとって太宰は心 子と母富子の落胆も大きかった。 いた。古田の弔辞は、涙でほとん 太宰と古田は深い友情で結ばれて 家と出版社という関係を超えて 社長の古田晃が弔辞を述べた。 出版社を代表して筑摩書房 \mathbb{H} かない太宰の自宅で営 中に衝撃が走った。 の友であり、

ていた。

ある日、

太宰と三鷹の飲

禍

め

に関わるなど、太宰と頻繁に接 は代表作のひとつ『斜陽』 目されていく。

新潮社の

野原

の出

は 崩

戦後文学の旗

疎

先から三鷹

に戻ってきた太

雑誌 は長野県東筑摩郡筑摩地村 生だった臼井吉見は創立に尽力 摩書房を創業。 塩尻市)出身で、 書房に入社することになった。 た聖子は、 その後、 社長秘書の名目で筑摩 野原に古田を紹介され 松本中学の同級 1940年に筑 現 古田 •

年後、 たが、 ところが、一緒に暮らし始めて2 接したことがない」と語っている。 て収入がなく、聖子が支えていた。 届かない感じの魅力的な女性だっ ふたりを知る友人は、「聖子は手の 出で 英利と 英利は不慮の事故で命を落 あれほど心の広い女性には は物書きをめざしてい 者が、 ただ、 二号店を出し、 ることはなかった。 太宰ファンの若 壇バー」と呼ばれるようになる。 夜毎に集い、いつしか風紋は「文 名な作家や芸術家、 の花園神社近くに17 オープン。壇一雄や井伏鱒二ら著 太宰の小説『メリイクリス 聖子自身は誰も特別扱いす その3年後、 映画人たちが 坪 の三号店を

は八方手を尽くして貴重だったス

その甲斐もなく、39歳で亡くなっ トレプトマイシンを届けてくれたが、

わずか半年の間に太宰に続き

結核性脳髄炎と診断される。

古田 悪化 もと

もと病弱だった富子の容態が

が入社したその

出家で3か月ほど過ごした後、再学者・出隆だった。失意の聖子は 界に入り、舞台や映画に出演した び一人に戻った。その後は演劇の世 してしまう。英利の父は高名な哲

禅林寺に母の墓を建てた。

終戦の

葬儀を出し、

太宰が眠る三鷹市の

母を失った聖子は、

20歳の若さで

年に父の林倭衛を、

その3年後に

母を亡くして聖子は一人になった。

その当時、筑摩書房は経営が厳

給料も3回に分けて支給さ

いた。 宿区三光町に自身のバーを開店す こともあったが、バー勤めは続けて 33歳の時、 聖子は思い立って新

の祝賀会には120人もの人が集

25年周年へと続いていく。

50 周 年 なかったというが、

風紋は20周年、

当初はそんなに長くやる気は

仕事をしていた。

たいした仕事も

井はほとんど給料をもらわないで れるような状態だった。古田や臼

は2年ほどで退社を決意する。 していないのに申し訳ないと、 聖子

生活

のため聖子は銀座のバーで

初めての恋をする。

客でいっぱいになった。 わずか4坪の店は連日 る。「風紋」女主人の誕生である。 や野原らが応援に駆けつけ、 1出版関 5年後には 係の

その間、

結婚して長男の卓が生ま 10年で離婚している。

かりの人々が聖子への想いを綴った。

記念誌『風紋五十年』にはゆ

れるが、

きたいと訪れることもあった。 その マス』のモデルだった聖子の話を聞

11

場の雰囲気に尻込みする若者を聖

子は温かく迎えた。

90歳の時だった。 閉店したのは、2018年、聖子かったと……。 風紋が惜しまれつつざ結婚してみて自分には向いてな

されている。 とれている。 とれている。 他女にとってかけがいここで、彼女にとってかけがいここで、彼女にとってかけがいここで、彼女にとってかけがいここで、彼女にとってかけがいここで、彼女にとってかけがい

いる。

画した戸谷邦弘は、若かりし頃で「林倭衛展」が開催された。企を巡回した。1989年には、長と巡回した。1989年には、長と巡回した。1989年には、長の後、上田市の山本鼎記念館へとの後、上田市の山本県記念館へ

を垣間見る思いであった」と述べて 関いになると知人を伴って訪れた なの常連たちと来場、その後も日たという。 開催 初日、聖子は 風たという。 開催 初日、聖子は 風奈 摩書房に勤務していた聖子に

せたが、聖子にとっては愛すべき父世たが、聖子にとっては愛すべき父の総が集まって驚いている。父も生の総が集まって驚いている。父も生まれ故郷の近くで展覧会ができてまれ故郷の近くで展覧会ができてまれ故郷の近くで展覧会ができてまれ故郷の近くで展覧会ができる。破天荒な生き方で母を悲しまた。破天荒な生き方で母を悲しませたが、聖子にとっては愛すべき父

晩

秋の一日、

彼女が眠る三

歳で亡くなった。めぐり会いを重2022年2月32日、聖子は93

も絶大な人気を誇る太宰の墓前にていた二人の墓に花を供える。今

ことだろう。

だった。あらためて誇らしく思った

は鷗外を尊敬していた太宰治の墓外の墓があり、その斜め向かいにの禅林寺を訪れた。境内には森鷗

が建つ。いつの日か訪れたいと思っ

代を築き、力強く生きた生涯だった。ねながら、風紋女主人として一時



禅林寺山門



森林太郎墓と刻まれた 鷗外の墓

は、花の他に手紙のようなものやキャンディなどがぎっしりと置かれていた。そこから真直ぐ奥に進むと、抜けるような青空のもと、秋田富子のお墓があった。20歳の聖子が建てた母の墓で、今は聖子も眠る。
「聖子ちゃん、長い間よく頑張ったね!」と、太宰と母に迎えられたに違いない。

海野 郁



参拝者が絶えない 太宰の墓前



秋田とみ子の墓。聖子も眠る

参考文献

『聖子―新宿の文壇 BAR「風紋」の女主人』森まゆみ 亜紀書房 2021 『風紋五十年』林聖子 パブリック・ブレイン 2012 『林倭衛画集』東御市梅野記念絵画館 2015 『回想 太宰治』野原一夫 新潮社 1980



ぶらり 散策

ちくま 千曲公園

千曲公園からの上田盆地の眺め

今号の表紙写真は「千曲公園からの眺望」です。最終号となる今回のぶらり散策は、上田市を一望できる「千曲公園」を紹介します。

上田市と坂城町との境付近に「半過岩鼻」と呼ばれる鼻の形をした岩盤があります。遥か昔、千曲川の激しい侵食によりできたインパクトある断崖絶壁は、現在、地元のシンボルとなっています。この岩盤の上から眺める景色がとても綺麗なのをご存知ですか? 春には提灯が灯り、お花見ができるスポットで、この場所が千曲公園です。

11月初旬、公園を訪れました。広場には滑り台などの遊具や、いつもパイバスから見上げている東屋がありました。他にも、「千曲之

清流」(徳富蘇峰書)の文字 が刻まれた大きな石碑があります。遠くに目をやると、 朝靄の中にうっすらと上田 の市街地が見えて、幻想的 な眺めです。東屋の少し先 にある見晴台は、崖ギリのラインまで作られてい て、スリル満点! そして 何より見事なのは、雄大に蛇



東屋

行して流れる千曲川の景色です。上田盆地 の隣が坂城町なので、双方の街並みがよく 見えて、船の先端から眺めているような心 持ちでした。

この公園ができたいきさつを調べてみました。大正 11 年に「手掘りのトンネル」と言われる場所から撮られた一枚の写真により、この地が日本百選に選ばれ、それを記念して作られたとのこと。当時、多くの方の賛同や土地の提供などがありました。

その写真は、川の水面より少し高いト



千曲之清流の碑

ンネル内から撮られた穏やかな千曲川の風景です。「手掘りトンネル」とは、上半過と下半過の往来の山道がとても険しく危険だったため、明治 33 年頃に石ミノを使って作られたものです。生活道路として利用されていましたが、現在は崩落の危険があるため中に入ることはできません。見ることができずに残念ですが、それでも暮らしを豊



川中島までの眺め

かにするために奮闘した、当時の人たちのパワーが伝わる思いでした。

周辺には、他にも鴻嶽神社、九日地蔵など、登山道を歩きながら散策できる箇所がいくつもあります。 今度は、お花見がてら日本百選に選ばれた景色を探してみたいです。

調べていくと上田には魅力的なスポットがまだまだたくさんあります。好奇心を持ちながら、あちこち散策を楽しんでいきたいです。

11月4日訪問 望月聡子

参考資料:

信州上田観光情報 https://www.city.ueda.nagano.jp/site/kankojoho/5856.html 川辺泉田まちづくり協議会(かわせん)

https://kawasen-mz.com/detail/1825/freepage-5.html

鑩点



この先の人材不足・人材不在へ備えよ

~上田地域の経済発展の鍵~

一般財団法人浅間リサーチエクステンションセンター 専務理事・センター長 岡田基幸

浅間リサーチエクステンションセンター(通称AREC)は、信州大学繊維学部を拠点に2000年創設の産学連携支援組織である。近年は地域企業の技術支援のほか、上田市技術研修施設(通称+519worklodge)の管理業務や、移住相談プラットフォーム「移住テラス」の運営、そして人材育成にも取り組む。

コロナ禍で企業の人材不足は深刻化した。このまま進むと、業界内で人材の奪い合いが起こる。好条件・良環境な職場に人が流れ、対策をしてこなかった企業は取り残される。企業は数年先を見越し、 先手を打つ必要がある。

昨今は働きがいよりもプライベートを重視する若者が増えており、仕事に対する価値観が多様化している。採用戦略を考えるとき、企業はこうした志向を理解し、働きやすい職場づくりに取り組む必要がある。

職場づくりの一環として、設備や間接部門への投資は重要な要素だ。23 年度に高卒者 15 人を採用したという埼玉県の株式会社金子製作所は、敷地内に従業員用のカフェを開設するなどしてイメージの向上に努めた。長野県では昨年、株式会社竹内製作所が青木村に

竣工した新工場が話題となっている。

上田市の株式会社吉見鈑金製作所は、社内に人材を配置し、積極的にSNSを活用する。若者の視点を生かし、地域企業のIT活用を支援するネクストリザベーション株式会社も注目を集める企業だ。

こうした事例から世の中の情勢を捉え、内部留保を削ってでもこ こに投資する経営判断にかじを切れるかどうか、そこがポイントと なる。採用戦略とはすなわち、経営戦略なのだ。

現在は理系人材がもてはやされているが、この風潮にも懐疑的だ。 少ないといわれる理系人材に的を絞るよりも、理系・文系問わず幅 広い人材にアプローチし、採用後にリトレーニングするほうがよほ ど有効ではないか。企業は求める人材像を改めて定義し、採用後の 定着・育成までを含めた戦略を練るべきだ。

働き方改革が進む中、生活スタイルに合わせ柔軟な働き方に対応 できるのは、機動力のある中小企業のメリットといえる。残業なし は当たり前、家庭の事情を考慮し勤務時間を融通するなどきめ細や かな対応も可能だ。週休3日制にする思い切りがあっても良い。

貴重な外国人材の雇用についても改善の余地がある。特定技能外国人として製造業で働く場合、現状では一定の日本語能力が求められるが、円安が進み日本の労働市場の魅力が低下する中で、このようなルールは取り払われる可能性もある。これからは、地域企業であっても社内公用語を英語にするなどして対策しておくことが重要だ。

地域に人を呼び込むためには、地域全体で意識を変えていかなければならない。そのために一歩踏み込んだ支援を届けるのが我々、 産学官連携支援機関の使命だ。最新情報の発信、人材のリトレーニングなど新しい機能を構築し、自治体と企業の三位一体となって、 人材の採用・育成・定着支援の強化に取り組む。

> 「観点」は 4号(2011秋)から29号(2018年冬)まで 6年以上26回にわたって寄稿いただきました。

国際子ども図書館入口の石銘板

た。 5 語籍 館が湯島聖堂 代図書館として に 1 この施設が帝国 開設されま 8 7 2 本 明 初 0) 治

国際子ども図書館へ帝国図書館から

移転されています。 年には上野公園内に 紆余曲折を経て、 (明治18) 帝国図書館

図書館の前身とされ、

の作家の作品を紹介します。 しています。 小説や日記などにその面影を残 書館には、近代文学史に名を 野図書館の愛称で親しまれた図 のレンガ造りの洋館でした。 39 開館したのは、 が上野公園内音楽学校の空地に 連ねる作家たちが足繁く訪れて、 年のこと。 その中から、 ゜ルネサンス様式 1 9 0 6 (明治

Ł 館 長 医 は 物語を書く糸口となった。 1 で閲覧し 編史伝 で考証学者の渋江抽斎 江戸末期 森鷗 年から 樋 葉は \Box 外著 であ 1 8 9 3 た抽斎 1 葉日記」 の弘前 る。 る。 8 渋ぶ江ネ 9 帝国図 の写本 1 脳藩の侍 抽り による 明 明 治 治 が 書 0

18

レンガ棟前景

記 から閉館 ど で 忍 あ 筆 ち を た か 暮 ちに だ 5 池 った。 に、 訪 0) 0) れ ŋ ょ 蓮 た 古典 『今昔物語』 舶 れ 0) に いって、 端 め 策 な の花 な **小を楽し** て読 、作品をよく読み、 時 る った」と、 の資料を探すことも V へ出る。 大学を通 蕳 夏 0) ま 清らか 0) み すがすがし で滞在。『 耽 \exists む 『吾妻鏡 時に 茅 り抜 つ 望 子 な 町 7 図 は がけて不 はや夕 いるう 書 香 あ た 太平 館 り た 早 い 本 気 朝 ま が り な

L

彼 3 は帝 芥 を 玉 Ш ŧ 龍之 図 覚 書 0) え 館 半 介 生 0) 7 0) V 与 から えた第 伝 的 抜粋。

> 番は恐ろしく るきまりで、

譲吉は、

に、 き 出 0) に 怖 0) 1 消 箱 は 々 椅 い 天 に 鉄 滅 幸 に 子 窓 # 0) 対 を L V に に 階段 地下 た。 する に 埋 対 対 ŧ する め する)恐怖 に 彼は 0) 尽くした 食 恐怖 恐 力 忽ち閲覧室 度通ううち を。 タ 怖 を が、 親 口 無 を、 ロウグ 無 恐 の数大 H

7

い で

を

間

に

31

口

図

公譲 が見つからず、 吉 菊 は 池 寬 大学を 著 \neg 出 出 世 た Ĺ が 0) 職 主 業 人

に

4

に通

つ

ていた。

めな思い

りて

下

足を預

覧者は地下室に降 履きに履き替え で図書館 下足 け、

吹き抜けの大階段

同 を れ た譲 る 訪 情 ば は 譲 H 吉 遇 向 閲 に 今の境遇 れ な 暗 は 違 こうから 覧 る 5 に 7 い **発売場** 晴 بخ ŧ が 地 な V V 望 久 た。 れ な 下室 い み に 思 V) 声 ぶ 足番 で暮 は れ に い 数 年 分 と あ を 出 が り 満 に 生 か け 後 5 世 ž た 足 け Ĺ ず 図 0) 0) 心 だ 7 7 下 書 か

館 きた。 足 7 V を な境 い 番 な つ た。

かった。 かった。 た。 そこ 掌編 7 び てつめたく りの大きな扉が半分開 灰色の陰影だけで出 邂逅と決別を描いたとされる ケが手を額 岡 たび きな窓から西 った。 24 歳 高等農林時代 おれはするりとはい の天井は途方もなく高 れてゐる 『図書館幻想』 帝 つめたい 0) (中略)高さ二丈ばか 全體その天井や壁が 時 室の中はガランとし 国 に に 図 かざしてそこの せいの低い 書館 東京に滞 のかわからな 漆喰 の空をじっと の親友との を訪 から抜粋。 で固 一来て がいて

な 在 れた。 ダル ぁ って め あ る

> 長野図書館で、 れました。 受け入れたのは県立 空襲に備えて図書の疎開が行 戦時下には大きな局面を迎え、 くの文学者が訪 こうして、 1 9 4 3 れて 玉 図 書館 ぇ 5したが、 には 昭 和 わ

18) 年11月から翌年の8月まで、

L

ました。

3回にわたって13万3400

100年3月には飯山高等女学校れが出たため、1945(昭和ところが、長野市にも空襲の恐ところが、長野市にも空襲の恐ところが、長野市にも空襲の恐い出たため、1万3400

100にわたって13万3400

1100にあたって13万3400

1100にあたっと150にあります。

際子ども図書館として生まれ 会図書館が創設されたため、 図書館と名称を変えましたが 1 9 4 8 戦後、 2 図書館となります。 0 (昭和23) 年に国立国 帝 0 玉 (平成12) 年に国 図 書 館 は 玉 その そ 立

めてゐた。



④アーチ棟には資料室や研修室、書庫がある

わりました。 図書館です。 立 初の児童書専門

に選ばれています。 して利用、 は帝国図書館の建物を保存・改修 アーチ棟に分かれていて、 国際子ども図書館はレンガ棟と 東京都の歴史的建造物 レンガ棟

けられています。 ンの手すりは創建当時から使い続 けの大階段があり、 しょう。 レンガ棟に足を踏み入れてみま 1階から3階まで吹き抜 繊細なデザイ

展示。 せる4本の の日本の子どもの本の歩みを常設 だった部屋で、 匤 2階の「児童書ギャラリー」 [図書館時代に「特別閲覧室」 部屋の中央には宮殿を思わ 漆喰の化粧柱が立って 明治から現代まで は

3階の 普通閲覧室」だった部屋で、 「本のミュージアム」 は さ

> り、 歴史を紹介する展示コーナーがあ まざまなテーマで子どもの本を紹 高い天井の音響効果を生かし 同じ階のホールには図書館 $\tilde{\sigma}$

力的な本のミュージアムを形成 子ども図書館は子どものため ふと姿を現してきそうな……。 厚な扉の陰から一葉や賢治たちが てコンサートなども開かれます。 んな雰囲気を漂わせながら、 こうして館内を巡っていると、 国際 の魅 重 そ



ています。

郁

参考文献・ウェブサイト

『帝国図書館-近代日本の「知」の物語』長尾宗典著 中公新書 2023 『夢見る帝国図書館』中島京子著 文春文庫 2022 第6巻』 森鷗外著 岩波書店 1979 『鷗外選集 『樋口一葉日記』アドレエー 1993 『芥川龍之介全集 第 12 巻』岩波書店 1996 『菊池寛文学全集 第3巻』文芸春秋新社1960 『新修 宮沢賢治全集 第 14 巻』 筑摩書房 1980 国際こども図書館 https://www.kodomo.go.jp/



情報も、

1冊ごとの手書カードで

ができるようになりました。

本の

「図書館」のこれまで、

出田情報ライブラリー

を迎えました。和5(2023)年で100周年(1923)年にできてから、令上田市に公立図書館が大正12

本から自分で選んで手に取ることきるようになり、棚に並んでいるたのが、借りて持ち帰ることがで館の中で読むことしかできなかっで、出してきてもらった本を図書る初は、読みたい本を申し込ん

かったと思います。ただ、平成22のは、この規模の図書館では珍しのデータベースを利用できるというのパソコンを何台も設置し、複数のパソコンを何台も設置し、複数のパソコンを何台も設置し、複数には20周年を迎えます。開館当初には20周年を迎えます。開館当初したので、令和6(2024)年

じられます。 どられます。 図書の変化とともに社会の変化も感館の変化とともに社会の変化も感館の変化とともに社会の変化も感が多かったのですが、その後、年々が多かったのですが、その後、年々が多かったのですが、その後、年々が多かったのですが、その後、年々が多かったのですが、その後、年々が多かったのですが、その後、年々が多かったのですが、その後、年々が多かったのですが、その後、年々が多いですが、その後、年々が多いですが、その後、年々が多いですが、その後、年々が多いですが、その後、年々が多いですがあった。

ターネットも情報源にしている人 をおりましたが、現在では、イン が「本」や「新聞」だけだった時 きています。「知る」ために頼るの の情報を手にする方法は変わって の情報を手にする方法は変わって の情報を手にする方法は変わって の情報を手にする方法は変いって の情報を手にする方法は変いいい の情報を手にする方法は変いに続え の情報を手にする方法は変いに続え の情報を手にする方法は変わって の情報を手にする方法は変わって の情報を手にする方法は変わって

平成16 (2004) 年に開館しま

一方、上田情報ライブラリーは、

ではインターネット情報(公的機なくなっており、国立国会図書館「資料」が紙媒体のものだけでは

が多いでしょう。

(2010) 年ころまでは、イン

サービスを行っています。
もに、デジタル資料の公開や送信料(電子書籍等)を収集するとと関のウェブサイト)やオンライン資

にも、地域資料や古い貴重資料を でいくことが考えられます。 ほかの図書館では館ごとに蔵書としての図書館では館ごとに蔵書としての図書館では館ごとに蔵書として

「図書館」とは、建物だけのことも行われています。

意見や要望をお寄せください。一合わせた図書館の在り方についてのしています。職員だけで、時代に捉えることなどできません。利用をています。職員だけで、時代を仕方、内容や設備などが変化しての社会の変化に合わせて、利用のではないからこそ、長く続く中でではないからこそ、長く続く中で

う。 緒に、「図書館」を創っていきましょ

最後に、上田図書館倶楽部が最後に、上田図書館倶楽部が最後に、上田図書館倶楽部がましていただきありがとうございをでしょう。長年にわたり、たくとでしょう。長年にわたり、が生まれたことでしょう。長年にわたり

読者の声

してみました。「環」のスタッフので取り出して、あらためて読み直るというので、創刊号から50号ま電子ジャーナル「環」が終刊す

のです。 季節の便りを添えて送ってくれたもれな私のために毎号印刷・製本し、一人である友人が、パソコンに不慣

にもめげず、新年の若水をうれし9号の「若水」では、病や貧しささに背筋がシャンとします。殊に、まず、各号の名称の格調の高まず、

ました。

く汲む樋口

一葉の歌に深く感動

めますが、それぞれに豊かさを感いきます。それから本文を読み始はいつか故郷への郷愁につながって写真へと戻ります。すると、想い写真の説明文を読み、再び次に表紙の写真をゆっくり見て

じさせる内容に満足を覚え、一日二

を訪れたこともうれしい思い出に高浜虚子や萩原朔太郎ゆかりの地「環」で紹介された美術館や、日で読み終える分量も良いですね。

とうございました。 スタッフの皆さま、長い間ありが

なりました。

長野市篠ノ井在住紫苑

★「環」廃刊を惜しみつつ

初めて手にした時、発行の季節に表紙の写真が実に素晴らしい。

ける人たちにスポットを当てたイン地域で地道に趣味や社会活動を続人の歌が紹介されている。そして、うな(昔習った)古典の言葉や歌表紙をめくると発行季節を表すよみのアングル、構図にまず驚いた。マッチした題材はもちろん、プロ並マッチした題材はもちろん、プロ並べきできにした単

い作家らの足跡を追った文学紹介タビュー記事、信州にゆかりの深

生スタッフらり意気入りが云っってる冊子だった。中心となってきた女…。 品がよく洗練された感じがす

おしかった。 くるようで、毎号、毎号が待ちど性スタッフらの意気込みが伝わって

から。当時大変お世話になった社に勤務していたことがあった新聞記者の端くれとして上田支関わりがもてたのは40年ほど前、関い期間だったものの、「環」に

…」を、第38号から5回にわた
験を綴った拙文「71歳の初挑戦
のもっかけとなった。豪雨被
が寄むというにばラン
身稿のきっかけとなった。豪雨被
しまるとが寄
い事を綴った拙文「71歳の初挑戦
のを発行する上田図書館倶楽
の本
の本
のを発行する上田図書館倶楽
の本
のを発行する上田図書館倶楽
の本
のを発行する上田図書館倶楽
の本
のを発行する上田図書館
の表
のま
<l

を申し上げたい。

張りに敬意を表したい。廃刊は惜 うに思う。発刊から13年、同年配 と見ていた一方、地域に根差した 地の真ん中を千曲川が流れ、 りに太郎山に登った。かつて住みた 身には「本当にお疲れ様でした」。 のスタッフの皆さんのこれまでの頑 信力が近年あまり感じられ 信の雄』とされていた上田市の発 前に浮かんでくるようだった。 い出やお世話になった人々が眼の 明媚な地だった。当時の多くの思 いと思った眼下の上田市 しまれるが、編集の苦労が分かる 「環」には訴えるものがあったよ 昨年4月、友人3人と数十年ぶ 風光 東

遠藤 進(長野市)2023年 11月22日

り掲載いただいた。感謝とお礼

情報ライブラリーと

PO 法人上田図書館倶楽部との協働

N P 0 法人上 田 図書館倶楽部

理事長 小平千文

終わりがある。 上田情報ライブラリーの始ま すべて、 物事にはその始まりと

プト (構想) は、「暮らしとビジネ 開館された時になる。そのコンセ 2004 (令和16) 年4月23日 りは、「世界本の日」にあたる 田 駅前の新しい図書館」として 市の玄関口となる上田駅前に

り」の3つの柱からなっている。こ れらの事業をおこない、暮らしや と発信」、「市民協働の図書館づく ス支援」、「千曲川流域文化の創造 地域文化の向上に役立つ情

> し、現在に至っている。この時、 化をつむぐ」という図書館を目指 報や資料の提供と市民に役立つ「文 市

なく、 という新しい図書館作りであった。 が行政のみによる図書館運営では の行政運営上課題になっていたの 市民との「協働」による

上田情報ライブラリーの開館を前

して設立されたのが、上田図書館 に積極的に参加」することを表明 にして「市民協働の図書館づくり

として注視されることになった。 民との「協働」の先例になること 倶楽部であった。この動きは、 市

前に その上田図書館倶楽部の始まり 上田情報ライブラリー開館を した同 年 1月18日 上田市

等」である。

両

材木町の市立上田図書館で開かれ

民法改正により2022年4月1

は、

となり、現在に至っている 2 法人(NPO)上田図書館俱楽部 た設立総会になる。 06年7月14日、 設立2年後の

が掲げた3つの柱に対応した せ、 民の い」として、上田情報ライブラリー 市民32人よる設立趣意書は、「市 一力で上田の図書館を発展さ 地域文化の向上に寄与した 協

館業務の一部受託― 動、 つは、「図書館と協働した学習活 働」の内容を4つ挙げている。 リングの機会実現」、4つめに「収 館ボランティア」、 3つめは 「図書 への参画、協力」、2つめは「図書 セミナールームの企画・運営 事業を行うーことばの繭ホー ワークシェア

益事業─喫茶コーナー、一 者とも人間 年 でいえば 豆本販売 19 歳

(『信濃毎日新聞』2004年4月24日)



(『信濃毎日新聞』2004年1月19日)

新しい図書館作り定着化のさ が掲げている市民協働による れから熟年へとテイクオフして に成人になった域に入り、こ らなる推進 確認し合いたいことは、 される姿である。 といえよう。 いくステップからジャンプして わり」ではないことである。 いることと時代の変化に翻弄 ふさわしい成果を上げてきて いく入口に辿り着いたところ 18歳になったことから、 その協働の実態は、 から成年年齢は、 |の工夫であり「終 そんなとき 20 歳 それに 双方 から

環をふりかえる

季刊「環」では毎号その季節らしい名称をつけてきました。

号数	春	号数	夏	号数	秋	号数	冬
						1	創刊号
2	桜花	3	夏木立	4	錦秋	5	冬芽
6	春麗	7	夏野	8	爽秋	9	柊花
10	山笑う	11	蒼翠	12	明浄	13	山眠る
14	花時	15	朱夏	16	花野	17	冬麗
18	摘草	19	蛍火	20	菊枕	21	楪
22	恵風	23	夏霧	24	星月夜	25	六花
26	野遊	27	夏姿	28	秋園	29	垂氷
30	花筏	31	青簾	32	櫨紅葉	33	風花
34	胡蝶	35	白南風	36	秋桜	37	山茶花
38	春曙	39	空蝉	40	白露	41	吉事
42	雪解	43	若竹	44	吾木香	45	若菜摘
46	桜月夜	47	向日葵	48	夕月夜	49	若水
		50	青蚊帳			51	初日

名称にちなんだ歌も掲載してきました。 その中から、反響の大きかった歌を紹介します。

な空ほ蝉 : 人がらのなつかしきかな: の身をかへてける木のもとに もとに

しといねつたるみたるとも根の母が釣りたる青蚊帳を

葉

す垂が乳

こよひ逢う人みなうつくしき清水へ祇園をよぎる桜月夜 雪解ゆたかに濁る岸辺に梅桜真さかりなれや千曲川

与謝野晶子

秋

春

さびしききわみ君におくらむ吾木香すすきかるかや秋くさの 出でし花野の夕月夜かななんとなく君に待たるるここちして

わが衣手に雪は吹 君がため春の野に そぞろにものの嬉しかりけりあらたまの年の若水くむ今朝 降りつつ 光孝天皇 は

た皆様に心より御礼を申し上げま

数えます。この間、多くの読者を 2011年1月の創刊以来51号を た季刊誌電子ジャーナル「環」は、 信」を目指して発行し続けてき 千曲 川地域文化の創造と発

持ち、反響をいただき、目標とし

た千曲川地域文化の創造と発信に

刊とします。 発行は2024年1月号を以て終 度、この電子ジャーナル「環」の 編集会議をはじめ、編集、 13年間のあれこれを思い出します ミューゼの喫茶店で行われた企画 一石を投じたものと確信します。 上田情報ライブラリーやサント スタッフの高齢化により、この 発行の

いた方々、 この間、 寄稿文を寄せていただ 取材に応じてくださつ

たライブラリアン等。 電子ジャー とうとう半生の目標になってしまっ つシニアの取材等 「環」 発行を終 ン紙発行の経験を活かし、 電子ジャーナル「環」は、 はつら タウ

り 好者。生来の美的センスと得意の 川地域ゆかりの文学作品をたど 井沢、小諸、上田はじめ、 始リードした企画発行責任者。 取材し、執筆し続けた文学愛 千曲

ポーター。 そして、 図書館探求が し、「環」とともに成長した若きレ 愛好家。地域をぶらり散策、 切り取って毎号巻頭を飾った写真 季折々の風景を得意の写真撮影で うならせた編集者。上田地域の四 執筆

使し素晴らしい装丁で毎号読者を インデザインやフォトショップを駆

> 結晶でした。 熱意を発揮したスタッフの努力の ナル「環」は、 このような才能と

ζ 与謝野晶子は、12人の子を産み育 を創刊した近代日本の代表的女性 てお勝手に立つとともに、 七草が 夫・鉄幹とともに雑誌 背中にはいつも赤ん坊を背負っ 月見団子やお彼岸のおはぎ等 「明星

ね 送り続けて参りました。 地域文化の向上を願い、電子ジャー 中から世の中を見続け、人々を訪 す。 す。 ゆ ナル「環」を13年間にわたり世に ないにしても、同じように生活の れぞれ家庭をもつ市井の一市民で の年中行事を大切にしたといいま 与謝野晶子の才や熱には及ば 環」の企画編集スタッフもそ 地域の歴史や文学を取り上げ、

しょう。

・
はい生命を保ち続けることでれからもネット上の蔵書としてされた地域の記録や作品は、こされた地域の記録や作品は、こされた地域の記録や作品は、これに対している。

ます。
高村光太郎の詩の一節「僕の高村光太郎の詩の一節「僕の

2023年12月 宮下冠山



環 千曲川地域の人と文化を紡ぐ
 第 51 号 初日 2024年1月発行
 NPO 法人上田図書館倶楽部
 https://ueda.zuku.jp/
 電話 /FAX 0268-25-3115 info@zuku.jp
 (上田情報ライブラリー委託事業)

表紙及び文中の写真・絵は無断使用を禁じます

環スタッフ:伊藤文子 海野 郁 西入幸代 宮下明彦 望月聡子 矢幡正夫



NPO法人上田図書館倶楽部は、図書館との協働による学習活動や情報サービス活動、文化活動などを行っています。また図書館関連業務を上田市から受託して、市民参加による幅広い図書館サービスを行い、地域文化の発展に寄与することを目的としています。電子ジャーナル「環」も受託事業の一つとして上田図書館倶楽部が発行しており、千曲川地域の文化を通して人と人、人と地域をリングのように結び、文化とコミュニケーションの環を広げていくことを理念に掲げています。